

製本のススメ

Vol. 151

今季東京の雪は凄かったですね。景色として眺めるのは美しいのですが、雪慣れしていない私たちには少々厄介で できれば2月も雪が降らないでほしいと願うばかりです。

今回は**菊判**の話し

最近ではB列よりもA列が主流で、子供達のランドセルもA4のファイルが入る大きさになっています。当然 印刷依頼もA4・A5・A6というサイズが多く 使う用紙も菊判やA判ですね。さて ここで注意しなくてはならないのが どちらの用紙サイズを使うべきなのかです。価格面のみを考えれば A判の用紙を使いたいところでしょうが ここに一つ落とし穴があります。

今更な事柄ですが、印刷物にはトンボが付けられます。これは製本工程において大変重要であり、印刷側から製本側への申し送り事項でもあります。製本工程では通常このトンボを目安に作業が進んでいきます。そのため印刷物につけられたトンボの位置が表裏でずれていると、作業が進みません。それほど重要なものなのです。しかしながら A判用紙サイズでは このトンボが十分に印刷できないという事態が起こります。クワエ幅をとるとトンボを印刷する余白が取れないためです。これでは 印刷までは出来ても 製本できちんとした加工ができません。また何とか内トンボを印刷できたとしても **加工に十分な余白が確保できず製本単価が想像以上に割高になることも多くなります。**例えば中綴じ加工でページ数の多いものでは、中綴じ機械が折り丁を掴むスペースが確保できず、結果 手作業で入紙 鞍掛けと進まねばならず加工時間の大きなロスが発生し納期遅れという事態につながります。加工する製本会社の設備によっても変わるとは思いますが、見積もりを取っている場合であっても、加工内容が変われば金額も変わりますので十分な注意が必要ですね。

同じ品物(例えば再版)であっても 使う用紙サイズが変わると 加工には大きな影響が出てしまいますので、加工工程数の多い製本物の場合には予め加工会社へ問い合わせをしてみるのも良いと思います。



Tea break

まもなく節分ですね。本来は大晦日の行事であったそうですが 旧暦の新年が春から始まるため 立春前日と変わってきたそうです。また「豆をまく」と呼ばれているのは、農作業で豆を蒔くしぐさから来ているそうで、豊作を願っているためです。ちなみに炒った豆は福豆と呼ばれ、その豆をまき 年の数だけ食べると無病息災といわれています。

どんなところにも神様がいて、私たちを見守ってくれているのですね。

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本